

川の子ども新聞

第10号

THE JOMO SHINBUN
上毛新聞

利根川の水の精「ポトム」



水たすの、ささめき。

ふかい山やま、川の始まり。
白い世界にこだまする、
青い水のささめき。



(ささめき=ひそひそ話のこと)

矢木沢ダム(水上町)



P2-3 **水のみち探検隊**
たんけんたい
川の水のゆくえをたずねて、
利根大堰と東毛工業用水道
事務所を探検したよ。

P4-5 お正月! みんなで遊ぼう!
「川いカルタ」取りふだ
P6 もっと知りたい川のはなし
P7 おたより「川いカルタ」読みふだ
P8 ポトムの楽校

川にまつわる話

板橋 春夫

川をさかのぼる鮭

かつて新婚夫婦は暮れになると、仲人へ鮭の塩引きを贈る習慣がありました。この贈り物は三年間は続けるものだと言われ、そのために何組も仲人をするとかくさんの塩引き鮭をもらい、始末に困るほどでした。もたらした鮭は猫やネズミに食べられないように天井から吊しました。正月頃にも、木う端のような鮭の切り身を載せて白いご飯を食べる正月が待ち遠しいと歌われていました。

ところで海の魚である鮭は利根川上流までたくさん湧いてきました。産卵の時期になると、玉村町五料あたりまで鮭がのぼったとい、実際に大きな鮭が捕れたので魚拓にした例もあります。千代田町の利根大堰は、のぼってくる鮭のために魚道が設けられ、鮭が堰を越えてさらに上流へ向かえるようになっています。

長良神社の大蛇

利根川沿いの地域には数多くの長良神社が分布しています。板倉町の長良神社は洪水除けの神として信仰を集めていました。長良の神様は大蛇だと考えられています。千代田町瀬戸井の長良神社北方には御手洗という沼があり、そこには大蛇が棲んでいました。そして、ときどき出てきては利根川の水を飲んでいたりしています。

また、舞木や赤岩の住民は、子どもによだれ掛けをつけてはいけないとされています。それは長良の神様がよだれ掛けを嫌うので、これをつけると子どもが丈夫に育たないと言われているからです。なぜよ

だれ掛けを嫌うのか不明ですが、興味深い伝承だと思えます。

秀郷の産湯井戸

千代田町舞木の人は昔、赤城神社へお参りに行ったとき、どこから来たかと言わないことになった。舞木からやって来たという、泊めてもらえなくなってしまうことがあるので、わざと違う村名を言いました。

というのは、藤原秀郷伝説にはムカデを退治する有名な場面があります。秀郷は赤城の神でもあるムカ



デと戦い、退治してしまつて怪力の持ち主だったので、赤城神社にとつて秀郷に関係する人は嫌われてしまったのです。

舞木五軒屋敷には藤原秀郷が産湯を浴びたと伝える井戸が残っていました。このことから舞木は藤原秀郷ゆかりの地で、産湯を浴びた井戸の水はいくら汲んでも絶えることがなく、龍宮まで通じていると言われています。藤原秀郷伝説によれば、秀郷は龍宮へ行って盛大なもてなしを受けたとありますから、その話と関連させて井戸が龍宮へ通じていると語られはじめたと考えられます。

参考文献：千代田村誌編さん委員会編、千代田村誌(一九七五年)、八斗島町の民俗と伊勢崎市の民俗(一九八二年)
板橋春夫「いたばし・はるお」
一九五四年生まれ、群馬歴史民俗研究会代表。著書に「平成くらし歳時記」(吉田書院、二〇〇四年)、「講座日本の民俗学11」(共著・雄山閣出版、二〇〇四年)がある。